

RESIDENT PROGRAM PROPOSAL

魚沼理学療法レジデントプログラム 採用説明資料

土台をつくり、未来をひらく。



魚沼基幹病院 リハビリテーション技術科

2026

# 病院紹介

新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター  
新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院  
(略称：新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院)

## 地域で一つの病院



三次救急医療と高度医療

## スタッフ構成

理学療法士19名 作業療法士10名 言語聴覚士4名

県内外様々な領域の職場で経験してきたスタッフ多数

## 基本情報

 開設日  
平成27年6月1日（11年目）

 病床数  
454床（許可）

## 診療科（標榜科）

内科（総合診療科），循環器内科，内分泌・代謝内科  
血液内科，腎臓内科，リウマチ科（リウマチ・膠原病科）  
呼吸器・感染症内科，消化器内科，神経内科，精神科，  
小児科，消化器外科，乳腺・内分泌外科，心臓血管外科，  
呼吸器外科，整形外科，形成外科，脳神経外科，皮膚科，  
泌尿器科，眼科，耳鼻咽喉科，産婦人科，放射線治療科，  
放射線診断科，麻酔科，救急科，リハビリテーション科，  
矯正歯科，歯科口腔外科，病理診断科

# レジデントプログラムとは

若手理学療法士の臨床能力の土台を構築する体系的プログラム


## 制度の目的


急性期医療及び地域医療に対応可能な  
高度な臨床能力を有する理学療法士の育成を図る。


## 制度の理念

地域完結型医療の実践の中で、若手理学療法士に対し、急性期医療を基盤とした実践的かつ体系的な臨床研修の機会を提供し、多様な病態に包括的に対応できる能力を養う。

## 基本情報

 研修期間  
原則 2年間  
(修了後正規雇用希望可能)

 対象者  
新卒～臨床経験3年目まで

 研修場所  
魚沼基幹病院  
および地域連携機関

# なぜ今、レジデント制度か

## ⚠️ 現場の課題（変化）



### 高度急性期・併存疾患

多様な病態への対応が求められ、臨床が複雑化



### 高度なリスク管理と判断

地域移行までを見据えた適切な判断力が現場で必要



### 卒前教育と現場適応の差

卒前教育だけでは現場適応に個人差が出やすく、体系的支援が不足



## 💡 制度による解決



### 教育の標準化

OJT・講義・症例検討を組み合わせ、体系的に急性期の基本を学ぶ



### 成長の可視化と支援

定期的な面談と評価により成長度を把握し、個別に段階的支援を実施



### 病棟運営への貢献

目先の人員補充ではなく、学びながらチーム医療と病棟機能に貢献

# 通常の新入教育とレジデントプログラムの違い

明確な目標と体系的な支援で、確実な成長を約束するプログラム

	従来の新入教育
教育の体系性	現場の状況に依存しやすく、経験する症例に偏りが出やすい
指導体制	特定の先輩PTに依存しがちで、指導の質に個人差が生じやすい
評価方法	不定期なフィードバックや属人的な評価になりがち
期間設定	明確な区切りがなく、何となく「独り立ち」の時期を迎える
成長の可視化	自分自身の成長度合いや、足りない部分が把握しにくい
キャリア接続	将来の専門性やキャリアパスを自分で模索する必要がある

## レジデントプログラム

- ✓ OJT・講義・症例検討を組み合わせた標準化プログラムで網羅的に経験
- ✓ RPD・REM・CMの3層構造による組織的かつ一貫したバックアップ
- ✓ 半期ごとの指導者評価・自己評価・面談による客観的・多角的な評価
- ✓ 「2年間」という明確な目標期間で、基礎から自立までを段階的に育成
- ✓ 到達度チェックリストと定期面談で成長が見える化し、次課題を明確化
- ✓ 協会ラダーと連動し、認定・専門理学療法士への道筋を早期に描ける

# 魚沼基幹病院の強み

## 地域完結型医療 × 高度急性期が同居する学び場

### 救急・ICU

超急性期における全身状態の把握とリスク管理を学び、早期離床に向けた理学療法の基礎から実践までを習得

### 循環器・呼吸器・腎

心大血管疾患、呼吸器疾患、腎不全など、複雑な病態に対する内部障害理学療法を幅広く経験し、包括的なアプローチを実践

### 脳血管・運動器

脳卒中急性期からの機能回復支援や、術後・外傷患者の早期離床など、理学療法の主要領域を偏りなく網羅的に経験

### がん周術期

がん患者の周術期における全身状態をみる力を養い、治療段階に応じた適切なリハビリテーション介入方法を学ぶ

### 一般急性期・地域連携

急性期から回復期、生活期へと続く地域完結型医療の中で、連続性のある介入と多職種連携を通じたチーム医療を実践

### 専門的な指導者陣

認定資格保有者や大学院修了者、研究実績のあるスタッフが在籍。臨床の実践だけでなく、学術的視点からも成長をサポート

# レジデントで目指す成長像

2年間で段階的に学び、自ら成長し続ける理学療法士へ

Step 1

基盤をつくる



リスク管理の習得  
評価・介入の「型」の構築  
急性期理学療法の基本理解



Step 2

実践で広げる



救急・ICU、心腎の経験  
がん、脳卒中、運動器の経験  
一般病棟・地域連携の理解



Step 3

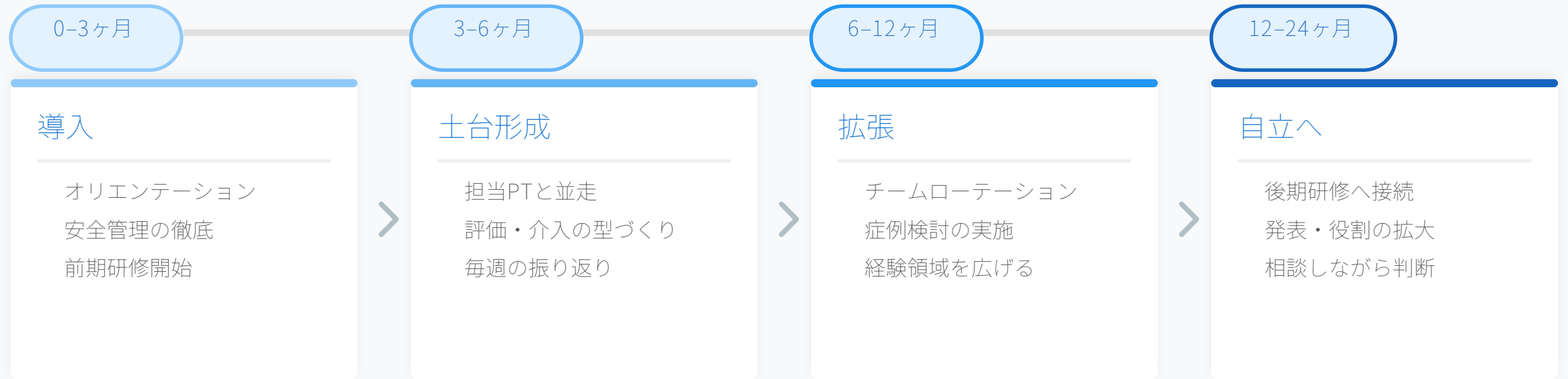
自立へつなぐ



クリニカルリーズニング自立  
多職種連携とチーム医療  
病棟運営への実践的貢献

# 2年間の学びの全体像

「学ぶ」ことと「任せる」ことのバランスを、段階的に調整しながら育てる。



横断的な支援



メンター面談



院内勉強会・症例検討会



地域施設見学



研究・発表支援

# 経験できる領域・症例

高度急性期から地域連携まで、偏りなく幅広い領域を経験

救急・ICU



循環器・呼吸器・腎



脳血管



運動器



がん



一般急性期・地域連携



# 学びを支える仕組み

充実した指導体制と、多角的な評価で確実な成長をサポート

## 指導体制と役割


**RPD**  
プログラムディレクター  
制度全体の統括・運営  
研修プログラムの設計・評価基準の整備

**REM**  
教育マネージャー  
日常の研修運営・教育実施  
面談体制の管理・フィードバックの調整


**CM**  
クリニカルメンター  
臨床現場における直接指導・助言  
症例に基づく教育と多職種連携の指導


**レジデント**  
研修理学療法士  
目標達成に向けた主体的学習・安全な実践  
チーム医療の一員としての行動・記録と報告

## 半期ごとの多角的な評価

 指導者による評価  
臨床能力や多職種連携の到達度を客観的に評価

 自己評価  
自らの成長と課題を振り返り、主体性を高める

 面談による評価・調整  
指導者とのすり合わせを通じ、次期の目標を設定

 症例報告等の学術活動  
臨床推論の言語化と、学術的視点に基づく自己研鑽

# 学術活動支援体制

臨床だけでなく、学術的成長も可能な環境

国際論文



2025実績

執筆多数

10編

世界へ向けたエビデンス発信

学会発表



2025実績

多数実施

36  
(PT24)

全国・地方学会での豊富な実績

高度人材在籍



博士1名 / 修士2名

学位取得者による直接指導環境

## レジデントに向けた具体的な学術活動支援



症例報告の指導

日々の臨床推論を言語化し、  
学術的な視点でまとめるプロセスを指導



学会発表のサポート

抄録作成からスライド資料の構成、  
プレゼンテーションの練習まで支援



論文執筆の支援

学術誌への投稿に向けた構成や執筆のノウハウを共有



研究デザインの相談

臨床の疑問を研究に繋げるための計画立案をサポート



統計解析のアドバイス

適切な解析手法の選択と結果の解釈について助言

# 日本理学療法士協会ラダーとの接続

当院の臨床経験と協会プログラムを連携し、キャリアの道筋を明確化

協会：前期研修



Resident 1-2年目

協会の前期研修を履修しながら、  
当院のプログラムで急性期の土台を  
確実に形成します。

安全管理と評価の型  
介入の基本とチーム医療  
後期研修へのスムーズな接続

協会：後期研修 → 登録



臨床 3-5年目

後期研修として領域別の実践や  
症例経験を蓄積し、自立した理学療法士  
へと成長します。

多様な領域での実践的介入  
症例報告・実地経験の蓄積  
「登録理学療法士」の取得

協会：認定・専門



将来（5年目以降～）

登録理学療法士取得後は、  
自らの強みを見極め、さらなる専門性の  
確立を目指します。

「認定理学療法士」への挑戦  
「専門理学療法士」への発展  
後進の指導・研究活動の牽引

# レジデントになるメリット

“優秀な人材を鍛える制度”ではなく、“やりたいことを見つけ、伸ばす制度”へ。



## 01. 急性期の「型」を早くつくれる

評価・介入・振り返りをルーチン化し、急性期理学療法の確実な土台を構築。「何から始めればいいのか分からない」という初期の不安を解消します。



## 02. 将来の専門性を見つけやすい

救急から地域連携まで幅広い症例を経験する中で、自分の強みと関心領域を言語化。焦らずに自分らしい専門性やキャリアの方向性を描けます。



## 03. 指導・面談で“成長が見える”

専任のメンターや症例検討、発表機会を通じて学びを可視化。定期的なフィードバックにより、「本当に成長できているか」という不安を取り除きます。



## 04. 地域で暮らしながら挑戦できる

魚沼の豊かな自然や食など、地域の魅力も含めて働き方を選べます。落ち着いた住環境で、ワークライフバランスを保ちながらじっくり成長できます。

最初から完成形を求めすぎず、2年間で“土台”を確実につくるための制度です

# 魚沼で働く・暮らす魅力

働く場所としても、暮らす場所としても豊かな魅力がある環境



## アクセス

東京駅から浦佐駅まで、上越新幹線で約1時間30分と好アクセス



## 環境

2,000m級の山々に囲まれ、四季の移ろいを肌で感じる豊かな景観



## 余暇

スキーや温泉、アウトドアアクティビティが日常のすぐそばに



## 食

魚沼産コシヒカリをはじめ、地酒や山菜など雪国ならではの食が充実



## 暮らし

落ち着いた住環境で、仕事とプライベートの充実したバランスを実現

# こんな人に来てほしい

ひとつでも当てはまる方は、ぜひ当院のレジデント制度をご検討ください。

- 急性期で“土台”を確実に固めたい
- 多様な症例を経験し、将来の専門性を見つけたい
- チーム医療の中心として、病棟運営に貢献したい
- 学会・発表・研究活動にも積極的に挑戦したい
- 地域医療に関心がある／暮らしの豊かさも大切にしたい
- 迷っているけれど、まずは一步踏み出してみたい



# レジデント終了後のキャリア例

2年間の土台づくりを経て、あなたらしい専門性とキャリアを広げる。



## 急性期専門として活躍

高度急性期医療の最前線でスキルを磨き続け、ICUや救急領域のスペシャリストとして院内で中心的な役割を担います。



## 認定・専門理学療法士へ

心臓、呼吸器、脳卒中などの特定の領域に特化。認定・専門資格の取得を目指しながら、学会発表や高度な臨床実践を行います。

当院に就職  
or  
新たな職場



## 地域医療のリーダーへ

急性期で培ったリスク管理能力を活かし、回復期や生活期へと活躍の場を広げ、地域連携の中核を担うリーダーとして成長します。



## 教育・研究の道へ

後進の育成に携わる院内教育担当や、大学院へ進学してのエビデンス構築など、教育と臨床研究を推進する道も開かれています。

2年間のレジデント期間はゴールではなく、多様なキャリアのスタートラインです

ここで始める意味

“

地域全体で“ひとつの病院”という魚沼の医療の中で  
急性期の土台を築く2年間

”

どこでも通用する臨床力と  
あなたらしい専門性の芽を育てる場所です

---

魚沼基幹病院 リハビリテーション技術科

# 募集情報・見学案内



少しでも興味を持たれた方は、ぜひ一度病院見学にお越しください。

## 募集要項(採用ページより)

- 対象者 新卒～臨床3年目程度の理学療法士
- 研修期間 原則2年間（定員は年度ごとに設定）  
※修了後正規雇用希望可能
- 研修場所 魚沼基幹病院 リハビリテーション技術科  
(必要に応じ地域連携機関)
- 備考 詳細な実施要領などは、説明会や病院見学時に共有いたします。



お待ちしております！

## 選考の流れ

病院見学 / 説明



エントリー



面接

## 見学・応募に関するお問い合わせ

病院公式サイト採用ページよりお問い合わせ、またはリハビリテーション技術科の教育担当まで。オンライン相談も可能です。  
ぜひお気軽にご連絡ください。

リハビリテーション技術科  
連絡先：rehabilitation@ncmi.or.jp